

『小児期発症急性肝炎患者の長期予後』 に関するご協力をお願い

| | |
|--------------------|---|
| 研究の目的と意義 | 小児期発症急性肝炎患者の特徴とその治療を明らかにすることを目的としています。 |
| 研究の方法 | 担当者が対象となる方のカルテ（診療記録）を選び、検査の値、その後の経過についての記録を集計させていただきます。 |
| 対象者 | 開院から2026年3月31日のあいだに、当院で診療をうけた小児期発症急性肝炎患者さんの一部の方を対象としています。 |
| 利用する試料/情報 | 患者背景(性別、診断時年齢、症状、身長、体重、感染症)、内服薬の有無、アレルギー歴の有無、基礎疾患の有無、家族歴の有無、検査所見(AST(アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ)、ALT(アラニンアミノトランスフェラーゼ)、GGT(ガンマグルタミルトランスペプチダーゼ)、ALP(アルカリフォスファターゼ)、T.bil(総ビリルビン)、D.bil(直接ビリルビン)、Alb(アルブミン)、WBC(白血球)、Hgb(ヘモグロビン)Plt(血小板)、PT(プロトロンビン活性)、M2BPGi(マック2結合タンパク)、ChE(コリンエステラーゼ)、総胆汁酸、オートタキシン、抗核抗体、抗平滑筋抗体、抗ミトコンドリア抗体、抗肝腎ミクロソーム-1抗体、免疫グロブリン、可溶性インターロイキン2受容体、フェリチン、Human Leukocyte Antigen、病理組織的活動性線維化重症度、治療内容・投与量・投与期間(ウルソデオキシコール酸、ステロイド、アザチオプリン、シクロスポリン、人工肝補助治療、そのほか治療)、治療反応性として治療開始後の各血液検査所見、および病理組織学的活動性線維化重症度、肝移植および死亡、肝関連合併症発症(食道静脈瘤、吐血、腹水、肝硬変、肝性脳症、肝不全)、寛解再燃 |
| 利用する試料/情報の取得方法 | 診療で得られた診療録等 |
| 利用する試料/情報の管理責任者・住所 | 済生会横浜市東部病院 院長 〒230-8765横浜市鶴見区下末吉3-6-1 |
| 研究組織 | 当院単独研究 |
| 試料/情報の院外提供 | 該当なし |
| 結果公表 | 日本小児栄養消化器肝臓学会、日本小児肝臓研究会、日本肝臓学会などで発表予定です。 |
| 試料・情報の利用又は提供開始日 | 院長による研究実施許可日 |
| 研究参加拒否・同意撤回 | 情報等を研究目的に利用されることを希望されない場合または一度研究参加に同意された後に同意を撤回される場合は、西暦2028年3月31日までに下記の問い合わせ先にご連絡ください。 |
| 当院研究責任者 | 済生会横浜市東部病院 小児肝臓消化器科/部長/梅津守一郎 |
| 問い合わせ先 | 〒230-8765横浜市鶴見区下末吉3-6-1 電話045-576-3000(代表) 済生会横浜市東部病院 小児肝臓消化器科/梅津守一郎 |